

追加資料

ニーズ調査結果まとめ

子育て家庭の特性について

- 本調査の回答者について (P5、P54)
就学前児童・小学生ともに「母親」が9割を占めています。
- 配偶者がいない世帯について (P5、P54)
就学前児童で3.1%、小学生で10.1%となっています。
- 子育てを主にしている人について (P5、P54)
「夫婦ともに子育てをしている家庭」が最も多く、就学前児童で56.3%、小学生で61.8%となっています。次いで、就学前児童・小学生ともに「母親が子育てをしている家庭」が3~4割程度となっています。(図1)
- 子どもをみてもらえる親族・知人の有無について (P6、P55)
「祖父母等の親族に見てもらえる状況にある家庭」は就学前児童で約8割、小学生で約7割程度で、半数以上が親族によって子育てが支援されていることがわかります。また、「見てもらえる親族・知人がいない状況にある家庭」は、就学前児童・小学生ともに約1割となっています。(図2)

図1 主に子育てをしている人について(就学前児童の問7、P5)

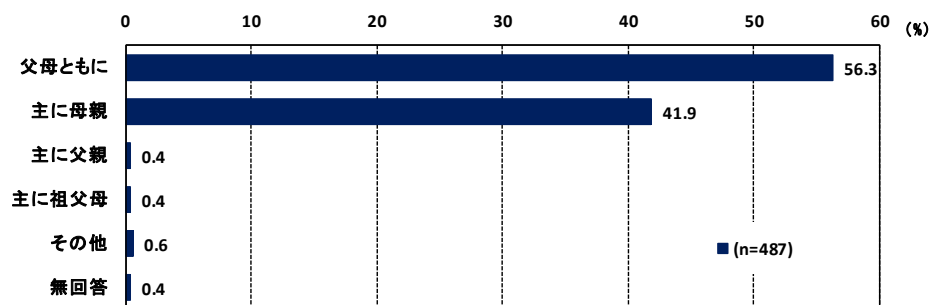
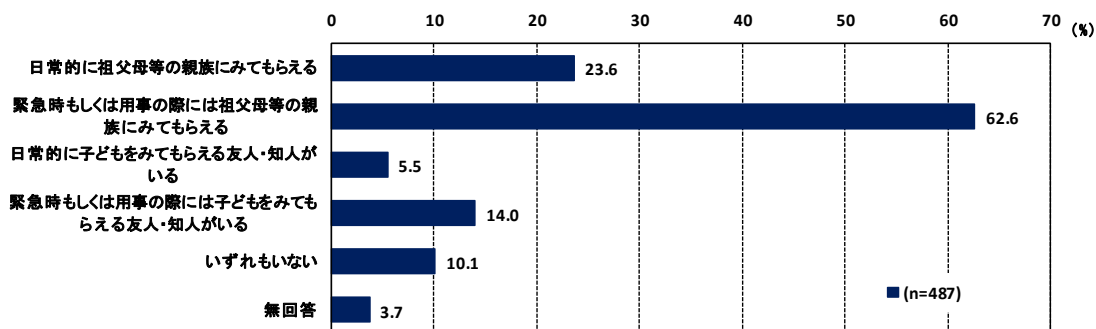


図2 子どもをみてもらえる親族・知人(問8、P6)



父親・母親の就労状況について

母親の就労状況 (P8～P12、P57～P60)

●現在就労していない母親について

就学前児童で 53.5%、小学生で 31.0%になっています。また、「現在働いていない理由」についてみると、就学前児童・小学生ともに「子育てしながら働ける適当な仕事がない」という回答が約 4 割と最も高い傾向にあります。(図 3)

●今後の就労意向について

就学前児童で 75.0%、小学生で 53.8%と就労意欲は高くなっています。(図 4)

●希望する就労形態について

就学前児童・小学生ともに、8 割以上が「パート、アルバイト等（フルタイム以外）」での就労意向があります。

父親の就労状況 (P8～P9、P57～P58)

●現在の就労状況について

就学前児童で 8 割、小学生で 7 割が「フルタイム勤務」となっています。週当たりの就労日数が「5 日以上」の父親は、就学前児童・小学生ともに 95%以上となっています。また、1 日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」については、「8～9 時間未満」が最も高くなっています。

図 3 就労希望はあるが現在働いていない主な理由(就学前児童の問 12-1、P12)

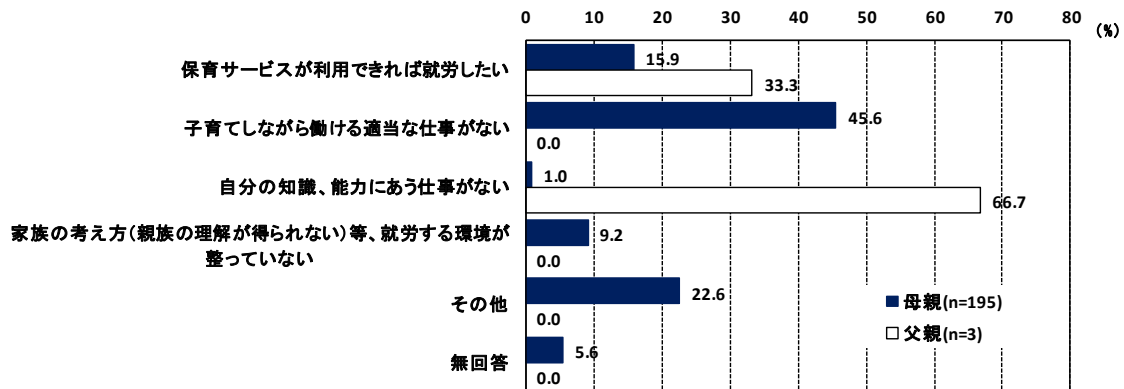
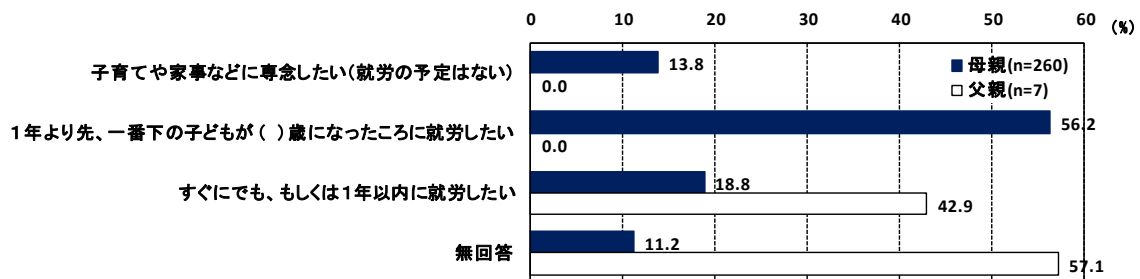


図 4 現在就労していない方の就労意向(就学前児童の問 12-①、P10)



定期的な教育・保育事業の利用状況と利用希望について

平日の利用状況・利用希望について (P14~18)

【利用状況】

- 現在、定期的な保育サービスを利用している家庭について
利用している家庭が 62.6%となっています。
- 利用している保育サービスについて
「幼稚園」が 31.2%、「認可保育所」が 22.0%と高く、それ以外のサービスはいずれも数%となっています。
- 定期的な保育サービスを利用していない家庭について
利用していない家庭が 36.3%となっています。その理由で上位に挙がっているのは「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がないため」「子どもがまだ小さいため」となっています。

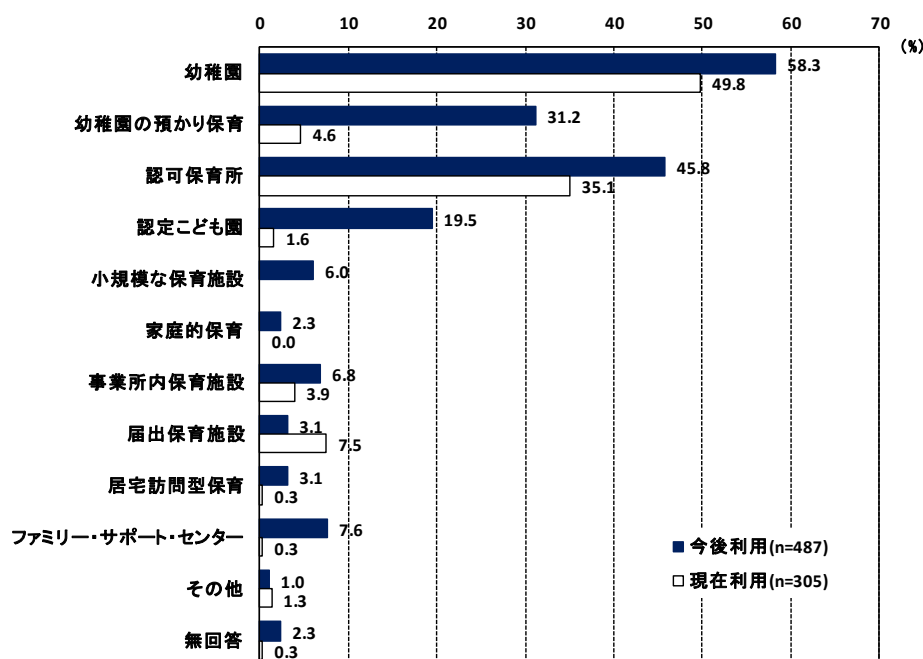
【利用希望】

- 現在利用の有無に関わらず、今後定期的に利用したい保育サービスについて (図 5)
「幼稚園」が 58.3%、「認可保育所」が 45.8%、「幼稚園の預かり保育」が 31.2%、「認定こども園」が 19.5%の順に高くなっています。

休日の利用希望について (P26~P27)

- 土日・祝日の利用希望について
「ほぼ毎週利用したい」と「月に1~2回は利用したい」を合わせると、土曜では 35.7%、日曜日・祝日では 15.9%となっています。
- 現在、幼稚園を利用している人で長期休暇期間中の利用意向について
「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」と「休みの期間中、週に2~3日利用したい」を合わせると、5割となっています。

図 5 平日の教育・保育事業として、「定期的に」利用したい事業(複数回答可)(就学前児童の問 15、P18)



学童保育所の利用状況について

就学前 (P35、P37)

- 小学校低学年・高学年時の放課後の過ごさせ方の意向について
低学年・高学年ともに「自宅」「習い事」が上位に挙がっています。「学童保育所」については、低学年 39.4%、高学年 21.2%と約 1 割程度の差が出ており、学年があがるにつれて利用意向が低くなる傾向が見られます。

小学校 (P62、P66~P70)

- 現在の学童保育所の利用状況について
「利用している」は 12.4%にとどまっています。
- 現在、学童保育所を利用していない家庭について (図 6)
「利用していない家庭」が 85.3%となっています。利用していない理由としては、「現在就労していないため」「就労しているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思う」が多く挙げられています。
- 今後の学童保育所の利用意向について
「平日」利用は 15.1%、「土曜日」利用は 9.1%、「長期休業期間 (夏休み等)」利用は 28.5%となっています。
- 学童保育所に対する要望 (図 7)
「学習・生活習慣づくりの充実」が 34.2%で最も高く、次いで、「現在のままでよい」が 25.7%となっています。

図 6 学童保育所を利用していない理由(小学生の間 12-4、P66)

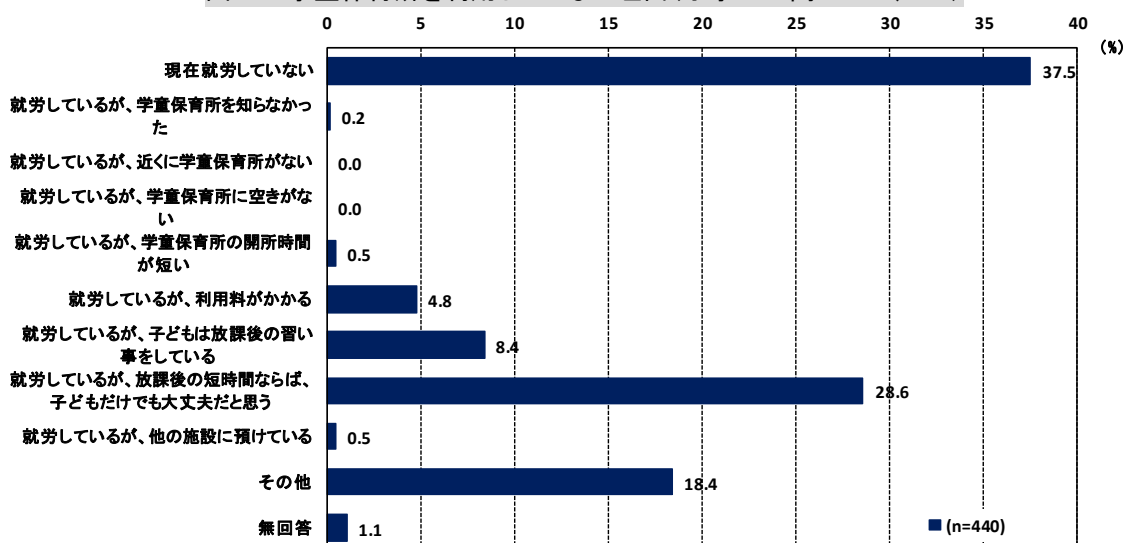
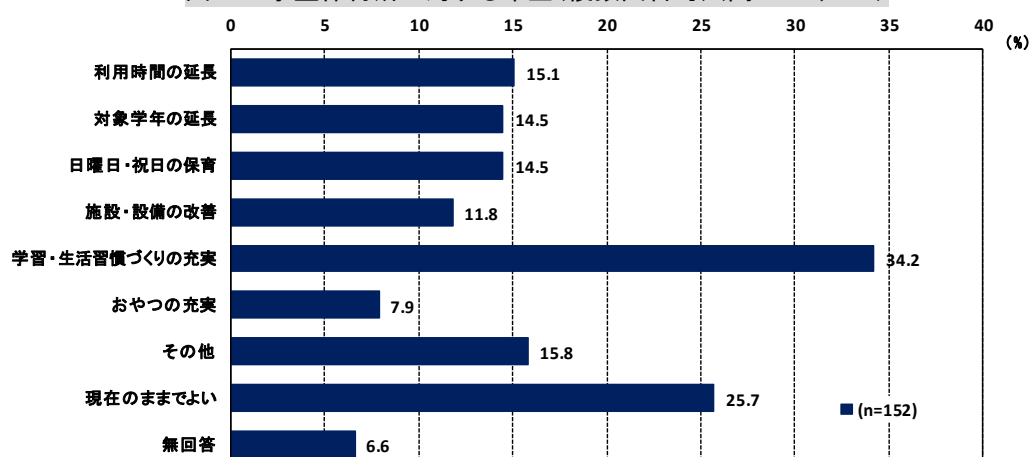


図 7 学童保育所に対する希望(複数回答可)(問 13-2、P70)



病児・病後児保育について

【利用状況】(P28、P76)

● 定期的な保育サービスが利用できなかった経験がある家庭について (図 8)

就学前児童 77.7%、小学生 68.0%となっています。対処方法としては、「父親が休んだ」「母親が休んだ」「父親又は母親のうち就労していない人が子どもをみた」という家庭を合せると、就学前児童は 8 割、小学生は 6 割と多くなっています。父親または母親が対応しているケースが多く、サービスの利用については数%となっています。

【利用希望】(P29～P30、P77～P78)

● 父親または母親が休んで対応した人について

「できれば病児・病後児保育を利用したかった」が就学前児童は 41.6%、小学生は 17.5%となっています。「利用したいと思わなかった」が就学前児童は 55.2、小学生は 73.8%となっています。

● 利用したいと思わなかった理由について (図 9)

「親が仕事を休んで対応する」「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が上位に挙がっており、次いで「利用料金がかかる・高い」が挙がっています。

図 8 子どもが病気等で定期利用している教育・保育事業が利用できなかった際の対処方法(複数回答可)
(就学前児童の間 22-1、P28)

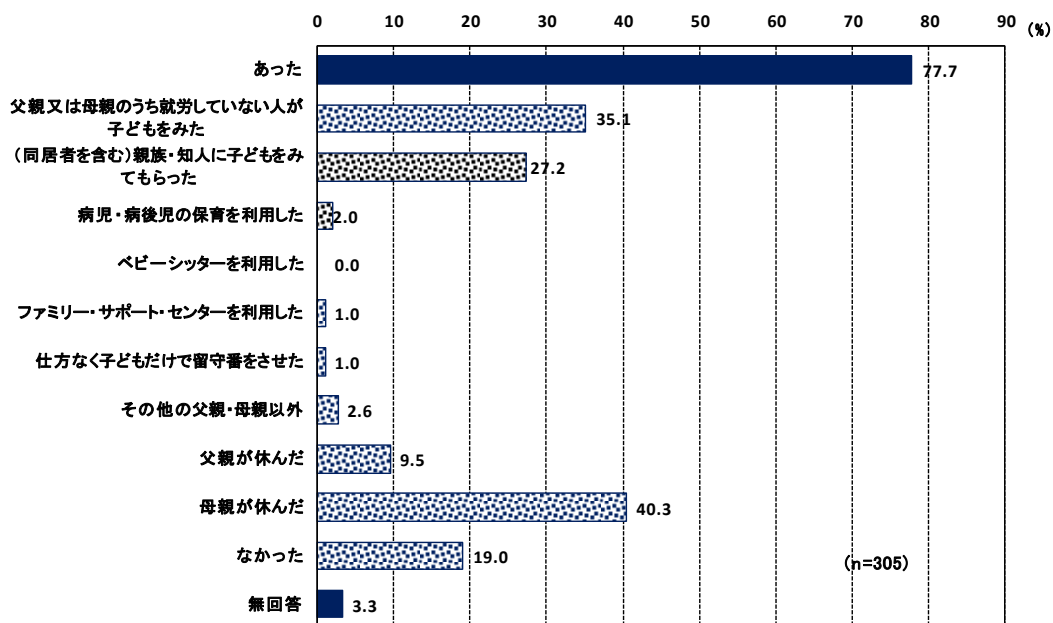
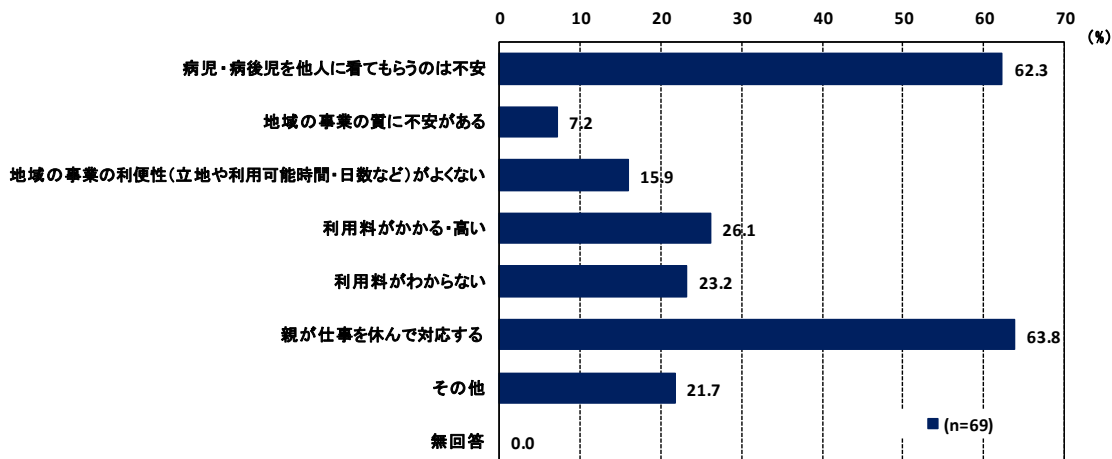


図 9 利用したいと思わなかった理由(あてはまるものすべてに○)(就学前児童の間 22-4、P30)



子どもの環境や遊びについて

●最近の子どもを取り巻く環境の変化で特に問題だと思うことについて（P44、P84）
 就学前児童・小学生ともに「携帯電話（スマートフォン）やゲームなどを扱うようになった」「交通事故や犯罪など危険になった」「戸外で遊ぶことが少なくなった」「テレビ・インターネットなどの情報があふれすぎている」の順に高くなっています。（図 10）（図 11）

図 10 子どもを取り巻く環境の変化で特に問題だと思うこと(3つ以内に○)(就学前児童の間 33、P44)

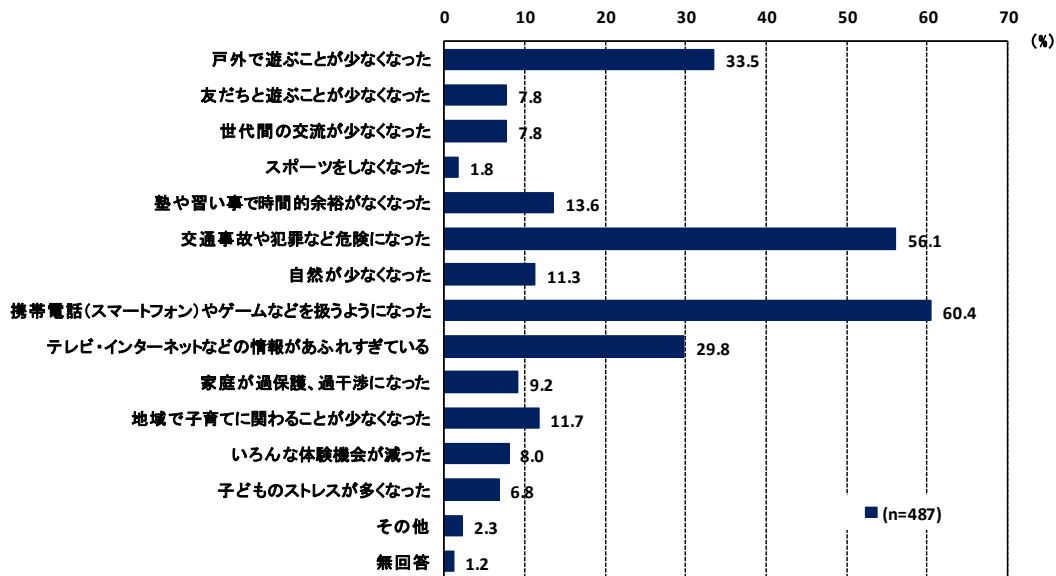
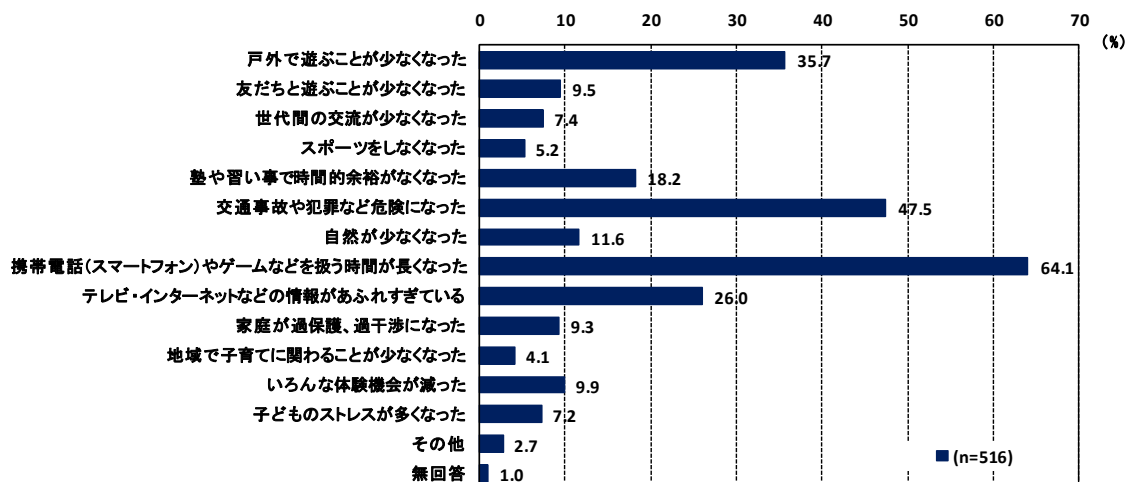


図 11 子どもを取り巻く環境の変化で特に問題だと思うこと(小学生の間 24、P84)



那珂川町での子育てについて

●那珂川町は子育てしやすいかについて (P46、P90)

「子育てしやすい町だ」「どちらかと言うと子育てしやすい町だ」を合せると、就学前児童・小学生の家庭ともに約 6 割となっています。「どちらかと言うと子育てしにくい町だ」「子育てしにくい町だ」を合せると、就学前児童・小学生ともに 1 割弱となっています。自由回答では、「病児保育がない」「子ども医療の拡充」「子どもの遊ぶ場所が少ない」「待機児童」など改善、課題に関する意見・要望がありました。一方で、「同世代が多い」「自然が多い」「子育て支援サービスの充実」など子どもを取り巻く環境に関する好意的な意見がありました。

●子育て支援に関する施策に望むことについて (P50、P93)

「保育料や教育費など子育てにかかる費用の負担軽減」、「児童手当、乳幼児の医療などの拡充」など経済的な面での援助を多く見受けられます。(図 12)

図 12 子育て支援に関する施策について望むこと(就学前児童の問 40、P50)

